意味があるのかい？

鳩山こしお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
意味があるのかい？

【Ｎコード】
Ｎ６７９８Ｇ

【作者名】
鳩山こしお

【あらすじ】
生きるってなんだろうね。みたいな事を考えてみた。

ある小春日和に…

「どうして早く来ませんでした？ま。手遅れというまでは行きませんが…」

まだ若い…４０前くらいか…

綺麗にアイロンのかかった白衣に計ったような７：３の髪型。カルテと彼を交互に睨みながら吐いた。

新宿区にある総合病院の診察室で彼は告知された。

「…ガーン」

医師も看護師も笑わなかったが、本人は満足げに笑みを浮かべている。

花沢五郎…３０代前半に見えるが、実際は４０代だろう。

人に『あんた死にかけてますよ』と吐いた医師が病状やら入院の手続きの仕方やらを始めている様だが、花沢五郎は上の空である。

スウェットの上下にサンダル。携帯、財布、煙草でポケットはもっこりしているという冴えない格好だ。

体調を崩し検査したのは一年ほど前なのだが、生まれつき面倒くさがりの彼は結果を聞きに行かなかった。

今回、騙し騙し働きながらの生活であったのだが、あまりのだるさと血尿の回数が増えたための検査にやってきた。

２ヶ月ほど前に入籍を済ませた妻の指示でもあったからだ。

なにやら案内書の様な書類を漫画本ほどの厚さで渡され、診察料を支払って外に出た。

季節は春だというのに気温は夏並みだ。

『…ガーン』

五郎はもう一度、心の中で言った。

新宿区では禁止されているタバコに火を付け、日本では禁止されている路上駐車の愛機に跨る。

古いスズキの３５０ＣＣだ。

半キャップにサンダルにスウェット…普通に冴えない格好でエンジンを掛けた…途端に彼の目の色が変わる。

ズドドォ！ズドドォ！

一瞬の間に冴えない男は渋滞の靖国通りに消えて行った。

体調が悪いから病院に行く。
注射打って薬貰って帰る。
家で寝る。

朝から考えていた普通のプランが木っ端微塵にされた瞬間…彼は何を思ったのだろう…

途方にくれ…

固定ハンドル、ハンドルネーム…いわゆるネット掲示板で使う名前の事だ。

五郎もハンドルネームを持っている。

『こっさん』

ネット掲示板の存在すら知らなかった四年程前、某ドラマでチャットなるものが流行った。

当時の五郎の仕事は建築鳶。

ビルやマンションなどの外壁用足場などを組むガテン系で、かなりハードな仕事なのだが五郎の荒い気性には持ってこいの仕事だった。

『腕さえありゃ一生食って行ける。誰にも負けねえぞ！』

若い頃から何の職に就いても他人の倍のスピードで習得し、飽きて辞める。

親類からは

「仕事の続かない駄目な奴。」と罵られ、敬遠され続けていたのだが実は五郎本人には何の気負いもなく逆に気楽な放浪生活を満喫していた２０代。

他人との関わりを極端に拒んだ時期でもある。
荒れた気性に似合わず、優しい顔立ちの五郎は女性から言い寄られる事が多く性欲の捌け口には困らなかった。

バシイッ！

ある日、現場で作業中にまるで雷に撃たれた様な衝撃が頭の先から足の爪先まで走った。
五郎は膝から崩れ落ち倒れ込んだ。
仕事仲間に発見され、救急車で運び込まれた病院での診断…

腰椎分離症。

腰椎部分の疲労骨折が二カ所いっぺんに現れた。
負けず嫌いな性格が仇になり、無理が祟ってしまったのだ。

「もう歩けないのかよ？」

「大丈夫です。１ヶ月ほど入院して様子を見ましょう。ただし、回復しても現場仕事は無理だと思った方がいいですよ。」

職人に復帰できない…

４０手前に直面した窮地に五郎は落胆していた。

疎遠状態の身内、己の腕に溺れて他人を小馬鹿にしていた為に友達と呼べる仲間など一人も居ない五郎…

見舞いに来てくれるのは飲み屋の女だけ。

「早く退院して遊んでね。」

『馬鹿か？こいつら』

生きて行く道を断たれた五郎になんともお気楽なお誘いの数々…

そんな入院生活も終わりかけた頃、眠れない五郎は何気なく携帯のインターネットを開いた。

何気なく検索窓に打ち込んだ活字は『チャット』。

複数チャットがある…

当然、どこでも構わない。

某ドラマで観た様に誰かと話をしたかった…

友達が欲しかった。

友達を、生きる『意味』を捜したかった。

接続したサイト…某アダルトチャット。

全てが初めての経験。

ハンドルネーム記入の欄。

とっさに

打ち込んだ活字は『こっさん』

以後、数年続くネット生活の大切な住民票。

こっさんが入室しました。

『うおっ！なんじゃこりゃ。』

しばらく様子を見るつもりだった五郎は病室のベッドで驚いた。

「ばわー」

「ばん」

「わんばんこ」

更新ボタンを押す度に五郎宛てのレスが表示されて行く。

埋もれて行く『こっさんが入室しました。』…

『やばい！なんか書かなきゃ！やばい！』

飲み屋の女相手に日頃メールで馴らしていた親指が火を噴く！

「いただきマンコス」

意味など何も無い。普段から使っている言葉を活字に変えただけ。

「バクショ」
「なにそれ―」
「ウケる―」

五郎宛てのレスで埋まる携帯の液晶画面。

『まだ…俺の居場所がある…』
『俺の居場所が…』

恐らく退院しても満足に歩く事すら出来ないと思っていた五郎。
活字の世界なら…俺が見えない人達なら普通に接してくれる！
その夜五郎は朝の回診までチャットをしていた。

コツはすぐ覚えた。

「いただきマンコス」
「退室しまちた。」

カリスマチャット師と呼ばれた男の名言の数々はデビューした時に生まれていたのだ。

当然、次の夜もチャットに潜った。

その次の夜も…

五郎のハンドルネームを見て入室して来る人達が増えた。

「こっさん遊ぼー」
「こっさん最高」

五郎は五郎でありながら『こっさん』である事に興奮していた。
ネットに恐怖感などなく、写真なども貼り付けた。

『歩けねえとか書かなきゃわからねえだろう』

ある日、写真を見た男にチャットで問われた。

「モテるだろう？」
「うん、モテるよ」
「じゃ出会い系とか来る必要無いじゃん」
「…出会い系なのかい？チャットって」
「ある意味ね」
「…」

五郎は違うだろうと思った、が。
「バーチャルでもモテたいな」
打ち込んだ五郎に違う男が応答した。
「チャットはバーチャルじゃないぞこっさん」

チャットはバーチャルじゃないと書いた男のハンドルネームは『あすむ』

以後、あすむとこっさんはコンビの様な存在になって行く。

バーチャルとは

チャット…

携帯画面での会話。

五郎が登録していたサイトにはいくつかの話題別にチャット部屋が分かれていた。

その部屋部屋に集まる種族が在るように思えるほど、会話の内容や部落的な発言をする者も中には居たような気がする。

ネットで活字遊びをしている人なら、荒らしなどの存在を知っているだろう。

女子に嫌がらせをしたり、誰彼構わず不快にさせる発言をする輩だ。

そういう輩が入室して来ると、無視などして対応するのが常套手段なのだが…

五郎は違った。

『俺が守らなきゃ』

正義感なんかじゃない。

やっと見つけた自分の居場所にケチを付けられるのが勘弁ならなかったのだ。

「ヲイ！お前ゴラ！消えちまえ糞ガキ！」
「どこ住んでんだゴラ！」
当然、リアルならば足元に這い蹲らせているであろう相手に活字で威嚇する事のじれったさは今でも忘れない。
無論、相手も名乗る訳ではないので活字罵声の堂々巡り…
が、五郎には策があった。
『俺が相手になっていれば、他の人に嫌がらせする隙がないだろう馬鹿めが』
チャットデビューからとんでもなく面白い人で人気者になったこっさん。
『本性出してみんなに嫌われても仕方ない。俺が守ってやる！』
「こっさん！ありがとう」
「やるなあ！こっさん」
荒らしが去った頃、みんなが入室して来る。
「…実はこんな奴ですまん」
「何いってんのこっさん最高！」
「狂犬こっさん最高！」
心のどこかで彼らの事を根暗な臆病者と思っていた五郎…

『俺を怯えないのか？嫌わないのか？』

「ありが…とう…皆さん…ありがとう」

そう、誰にも見えない携帯のこちら側で五郎は涙を浮かべていた。

「こっさん！俺の部屋に遊びにきてよ」

発言したのはキング。

「部屋！？」

「そう、チャット待ち合わせ用の掲示板に俺のスレッドがあるからさ！」

『掲示板…スレッド…なんのこっゃ…』

なんとか掲示板へのリンクまで誘導してもった五郎。

『これが掲示板！なんだこの膨大数の部屋は！』

チャットデビューの五郎は五つのカテゴリー分けしか知らなかった訳だから、その初めて見た大型掲示板には驚いた。

井の中の蛙が這い上がった瞬間である。

キングのスレッドへの、いや掲示板への初めてのレス。

「来ちゃったよ俺、ヨロロング！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6798g/

意味があるのかい？

2010年12月27日02時05分発行